

天候不順で彼岸需要の出荷動向は不透明、市場には早くも秋商材も

切り花の大物日の一つであるお盆需要は今年、高温となった梅雨とその後の歴史的な長雨の中で様々な影響を受けながらの販売となりました。大きな動きを見せるキク類では当初の見通しと異なり各産地で出荷の遅れが目立ち、市場では品薄単価高となったほか、その単価高に引っ張られ他の仏花、洋花も比較的高い相場での販売となりました。

来月にはもう一つの大物日、秋の彼岸が控えています。彼岸需要はお盆と同様に仏花のキク類を中心に盛り上がりを見せますが、東京都内での需要が加わることや需要期間が長くなることから、より計画的な出荷販売が求められます。

事前の予想に反して全国的に出荷が遅れ、8月盆は輪ギク・コギクを中心に品薄単価高

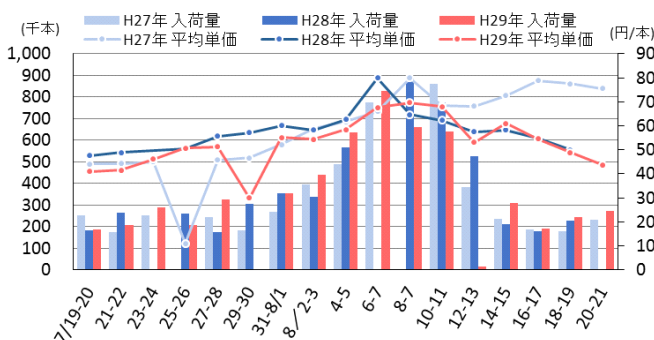
お盆に向けたキク類の出荷について、当初はおおむね順調な出荷が予想されていましたが、実際には各産地とも露地栽培を中心に高温による生育抑制や低温・長雨曇天による開花遅れから出荷量がまとまらず、市場ではダラダラとした入荷が続く、需要に対して品薄状態で高単価での販売展開となりました。また、需要期前半の仕入れを予定していた買参人にとっては厳しい入荷状況となったほか、長雨の中でもある程度動きが見られた末端の小売では利幅の取りづらい盆商戦となりました。

キク類の中心産地である愛知や静岡などの西南暖地では、7月下旬の高温が生育を抑制したため出荷が遅延し、また東北産地では6月の低温や8月上旬の大雨被害による遅延や出荷量の減少がありました。

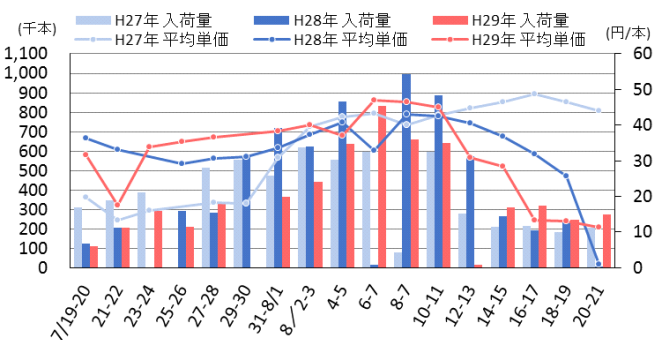
一方で輸入のキク類については、台風による入荷遅延や地域によっては開花遅延も発生し、輸入品についても品薄となりました。

キク類以外の切り花について、リンドウやケイトウなどの仏花だけでなく、トルコギキョウやデルフィニウムなどの洋花類もキク類の単価に引っ張られ高値での販売となりました。

大田市場におけるスプレーギクの入荷量及び平均単価（日別）



大田市場におけるコギクの入荷量及び平均単価（日別）

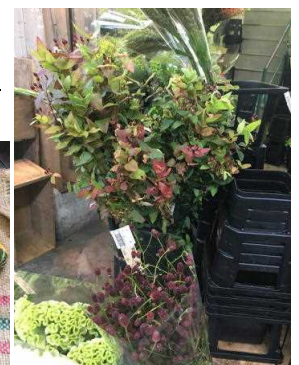


歴史的な長雨で、都内では早くも秋物商材の動きがスタート！

歴史的な長雨とそれに伴う低温を受けて、花き市場では買参人に対して早くも秋物商材の提案、売り込みがスタートしています。まだ天候次第の動きですが、夏物と秋物が入り交じるラインナップとなり、すでにワレモコウや紅葉物（ヒペリカム等）、ススキ、パンパスグラス、観賞用かぼちゃ、ハナナスなど秋を感じさせる商材が仲卸店舗で見られるようになってきました。実際に、都内の小売店ではそれらを合わせた秋物セットのミニブーケや花束が既に販売され、気温に敏感な動きが見られます。



観賞用かぼちゃ



ワレモコウと紅葉物(枝物)

彼岸需要に向けた出荷見通しは不透明で、今後の天候に左右

9月の彼岸需要に向け、露地栽培については8月向けと同様に天候不順の影響を少なからず受けていますが、どの産地も今後の天候の影響が大きく、見通しは「直近まで不透明」や「天候次第」としか言えない状態です。また、彼岸需要は期間や規模の面で盆よりも大きな動きとなり、そのほか9月は敬老の日やお月見の動きもあるため、より計画的な出荷販売が要求されます。現状、7月の価格低迷や8月の遅延・品薄を受けて買参人からは入荷に対する不安の声が出ており、市場も含めて産地の情報提供を求めています。

産地として、情報のプラットフォームでもある市場と密に連携し、出荷動向の事前情報を元にした計画的でスムーズな販売が非常に重要な9月の商戦となりそうです。